

「プラントメンテナンス技術者育成講座」 オーバーマスターコースのご案内

現在、化学、非鉄金属精錬、製紙のプラント装置等の「保全業務」におきましては、大手企業自身も技術者・技能者の大量退職を経て、再雇用の延長でしのいでいるのが実情です。従来、発注元主導で管理していた保全業務を夫々のゾーンに小分けして協力企業に一括発注する責任施工体制へと移行する傾向が強くなっています。これによりメンテナンスを担当する大手・中小の協力会社においては、技術・技能の伝承はもとより、環境負荷の低減や予知保全、余寿命診断技術、LCC（ライフ・サイクル・コスト）、RBM（リスク・ベースド・メンテナンス）など、これまで以上に高度なプラントメンテナンス技術やマネジメント能力が求められています。

このような状況下、中小の協力会社には、保全作業の遂行、部材・部品等の加工技術・技能では最高レベルの高い能力を保有している一方で、自らメンテナンス業務等を計画・立案・実行・管理する能力を有する人材が十分蓄積されていないため、このままの状況では大手製造業の安心・安全な操業に悪影響を及ぼすことも懸念されています。

更に、大手プラントメンテナンス企業との競争にも直面している中、単に、発注元の要求に応えるだけでなく、先進技術や業務改革に取り組み、自らが企画・立案する能力を蓄えることでコストダウンを実現し、厳しい競争に耐えるだけでなく、新規顧客の開拓や新分野進出を実現して行く必要に迫られています。

また、大手製造業からのプラントメンテナンスにおける責任施工体制への移行に応えると同時に、先進技術の取り込み、コストダウン等の提案・実現能力を強化するためには、プラント保全技術・技能とマネジメント能力を併せ持つ中核的な人材の育成が求められています。

一方、中小の協力会社が保全等に関する技術・技能の伝承やレベルアップを図るための人材育成は、各社ごとのOJTによる対応や必要に応じて個別的に学ぶと言う形を取っているため、今回の提案のような体系的な人材育成システムを早急に構築する必要にも迫られていました。

本講座では、従来のマスターコースの内容を“より高度に”・“より専門的に”かつ“グローバル化”に対応した講座として再構築し、技術面においては、プラント主要構成機器の知識の体系化と検査・診断技術、補修上の管理ポイントを習得すると共に、業務における現場の管理能力、調整能力、指示伝達能力を身に付け、グローバル化に対応できる大手・中小の協力会社の中核人材の育成を図ります。

本プログラムを修了し一定のレベルに到達した受講者には、メンテナンス現場でのリーダーとして活躍していただけるよう、(一社)新居浜ものづくり人材育成協会 代表理事名で「プラントメンテナンスオーバーマスター」（略称PMOM）の称号を認定・授与します。

平成 28年12月1日

一般社団法人新居浜ものづくり人材育成協会

代表理事 萩尾 孝一